

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600422		
法人名	医療法人社団 聖パウロ会		
事業所名	グループホーム今日香 さくら		
所在地	静岡県磐田市上野部1519-5		
自己評価作成日	平成27年11月26日	評価結果市町村受理日	平成28年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人のため、1日2回看護師の往診があり、1日1回医師の往診もある。24h体制のため、胃ろうやIVH、酸素持続の方も受け入れる事ができるため、医療依存度の高い方の受け入れも行っていることから、重度化しても最後まで今日香で過ごす事を希望される方が多い。建物も平屋なので、フロアの違う入居者様同士の交流も常に行っている。また、施設内で何かをする時もスムーズに移動できるため、医療依存度の高い方も一緒に参加できている。田舎なのでたくさん緑に囲まれ、きれいな空気の中で生活する事ができている。また、施設の庭も専門のスタッフが常に管理してくれているため、リクライニングの車椅子の方でも安心、安全に散歩する事ができている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2276600422-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居前から家族や関係者に情報を得て管理者と職員で話し合いをして受け入れ、その後も状況の変化を見極めていく観察力が高く、医療依存度の高い利用者を含めた個々のケースに気配りのある対応をしている。「今まで動かなかった数人が同時期に何かのきっかけで急に動きだし、立ち上がりでふらつく、歩き出してふらつく」それを全てヒヤリハットと捉えて検討し拘束しないケアを実践している。小さなことを見逃すことがないように危機管理を持って対応している。「お互いさまの心」の事業所理念は全職員に浸透していて、利用者から教えてもらうこと、ありがとうや励ましの言葉に感謝し、利用者・職員同士も互いに声を掛け合いながら日々笑顔で過ごせるような取り組みをしている。運営推進会議で取り上げられ検討した議事録は分かり易くまとめられて全家族に送付されている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成28年 1月19日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時と、年に1回は必ず理念の確認を行っている。また、両方の玄関に理念を掲示してあり、常に確認出来るようにしている。	管理者が「お互いさまの心」の理念を振り下げた年間目標を立て、ユニット毎に目標に沿って職員が話し合いをして、毎月のユニット目標を作っている。翌月に評価し、更なる目標を作り実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているため、草刈りや防災訓練、地区の祭りなどに参加している。施設としては、ジャズライブを行い、地域交流の場を設けている。	外に出るのが困難な利用者に地域からボランティアに来てもらい交流をしている。年1回の家族会に地域住民の参加がある。散歩の時に声を掛け合うことがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行っている介護の会に参加し、自宅で介護をしている地域の方と交流を持ち、施設で行っている生活の中での工夫を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	困難事例などがある場合には、運営推進会議で話し合い、そこで出た意見などを施設の会議で報告し、日々の生活に取り入れている。	行政職員・包括職員・民生委員・家族は当番制で順番に参加し利用者が一緒に入ることもあり、2ヶ月に1度定期的に開催している。事業所の活動状況や利用者状況を細かに報告し活発な討議をしている。議事録を全家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事があれば運営推進会議で話し合ったり、電話連絡をして相談している。	定期的に運営推進会議に参加しているので顔見知りになっていて、電話やメール等で連絡を取り合っている。行政主催の事業所連絡協議会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時には必ず職員に伝え、把握するよう努めている。また、年に1回、施設での勉強会と法人の勉強会を行い、全職員が理解できるよう努めている。	全職員は常に利用者の動きを観察していて、早めの対応で大事に結び付かないようにと、危機管理に対する意識が高い。利用者同時の動き出しにも職員は声を掛け合い、状況を判断して順番に対応する等、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回の施設での勉強会と法人の勉強会で職員全員が理解できるよう努めている。また、不適切なケアが見過ごされる事がない様、常に話し合いの機会を持っている。		

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在この制度を活用している方はいないが、いつでも説明できるよう、年に1回の勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は直接説明している。 改定時には、最初に文章で連絡し、その後面会に来て頂いた時に、直接説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置している。 また、玄関に意見箱を設置している。 ご家族様から意見があった場合には、その都度職員と話し合い早急に対応するよう努めている。	家族の面会時に同じ職員が対応するのではなく、年配の職員や若い職員などを代えて家族からの言葉を引き出せるように工夫をしている。自宅で以前から「ぬか漬け」をしていた利用者が、本人と家族の要望で入居後も継続している。	利用者・家族が意見を表せる機会を設ける為に、家族会を増やすなどの家族が事業所へ来所する機会を増やすような取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では、それぞれ担当の係の職員が話を進めるようにしており、少しでも話しやすい環境づくりに努めている。 また、会議中でもみんなに伝えたい事や気になることがある、意見を出してもらえるよう努めている。	職員は日常的にユニットリーダーに介護での相談や提案を行っている。やってみて変更したことはフロアノートに記入し統一している。月1回の職員会議後、ユニット毎で月目標に対しての評価をし、一人ずつ発言する機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、自己評価と面談を行ってもらい、話し合いの結果で、昇給の金額を決定している。また、生活状況に応じて、休みの曜日を固定している者もいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設では月2回の勉強会を行っており、法人としては年に数回勉強会を行っている。 また、外部研修には希望があれば参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の勉強会では、それぞれの施設の困難事例を出し合い、意見交換する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、本人が生活している場へ行き、本人やご家族様と話をすることで、環境面や精神面で本当に本人が安心して生活していけるような環境づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	過去に同じように悩んでいたご家族様がいらっしゃる場合には、事例として紹介させて頂き、たとえ小さなことでも安心してもらえるよう、何度でも対応させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの利用が困難となり、グループホームを紹介され、入居を希望してくれているため、他のサービス利用の話はしていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に出来る事はやってもらうようにしている。現在は医療依存度の高い方が多くなっているため、少し難しくなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1回、写真付きの手紙と、ちょっと細かく文章だけの手紙を送っている。また、面会時には、ご家族と一緒に本人の所へ行き、話しやすい空間を作ってから、退室することで、スムーズに話が出来よう工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方が多くなってきたため、1人の面会にきても色々な方も知り合いで話をされていく事が増えている。また、ご家族だけでなく、友人や同僚だった方も面会に来てくれている。	家族や友人が訪ねた時に、本人との会話が困難な場合や表情に変化がない場合、短時間で帰ったり、来る頻度が少なくなると知った職員は、利用者と訪問者が通じ合えるよう仲立ちをしている。訪問者が反応を見て安堵できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る限りフロアにて過ごして頂けるような環境づくりを心がけている。また、入居者同士が話しやすい空間となるよう、席やソファの配置も考えている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りまで行っているため、転院することは殆どないが、亡くなってからも、連絡をくれたり、足を運んでくれたりすることがあるため、自分達の出来る範囲でお話をさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅での生活で楽しみにしていた事があれば、それを入居してから継続できるよう工夫している。困難な場合であっても、表情やしぐさなどを観察し、ちょっとした変化があれば職員で話し合い対応を変えている。	常に状態の変化を見過ごさず、いつもと違う行動をした時の意味を検討し、混乱がないように対応している。音楽を聴いている姿が日常と違い顔を伏せていた様子から変化を察知し、場所を変えて「きり絵」をすることにより落ち着いて過せるようになった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報という書類を作成し、入居前にご家族様から伺った事について職員全員が把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録、フロアノート、連絡ノートなどで1人1人の状態を把握するようにしている。また、毎朝カンファレンスを開き、話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝1人づつ1ヶ月評価を行い、変化があった場合には、その都度、他職種の方にも意見を聞きながらみんなで話し合っってプランを作成している。	本人・家族の意見要望を聞き取り、職員は常に状態を把握して本人の望む生活像を長期目標とする。困っている事は・どうになりたいか・何をどうするかなどを話し合い、生活援助計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子についてはケース記録に記入し、いつもと違う事があった場合には、みんなが把握しやすいようにプランにメモを入れるなど工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊も本人の状態が安定していればいつでも可能となっている。また、馴染みの店や今まで通院していた病院などに行きたい場合にも、出来る限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療依存度が高い方が増えてきたため、出かけることが困難になっている。そのため、地域のボランティアの方に来て頂き、演奏会などを開いている。		

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人で24h体制なため、入居時に内科の主治医を移してもらっている。それ以外の病院については、今まで通り通院してもらっている。	毎日医師の往診があり、夜間の往診も可能である。月2回訪問歯科が来所している。他科受診は家族同行もあるが、概ね様子の分かる職員が同行支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日2回看護師が、1日1回医師が往診に来るため、常に状態把握をしてもらっている。往診時だけでなく、電話連絡をしても対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報交換は医療法人なため病院同士で対応してもらっている。また、入院中や退院時にも、病院へ行きムンテラをしっかりと行き、施設に戻るための準備も協力しながら行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前にも看取りまでさせて頂ける事を伝えていて、実際に状態に変化があった場合にも、その都度ご家族様と話し合いの場をもち、看護師や医師の意見も伝えながら対応させて頂いている。	本人・家族は「ここで最後まですごしたい」の意向が多いが、状況により話し合い確認を重ねている。医療体制が充実していて、状態が悪化した場合は要望等の話し合いをし、事業所での看取りを今年度も経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリ・ハットや事故報告がある場合には職員会議で事故対策を話し合い、職員全員が把握できるよう努めている。また、年に1回、事故対策についての勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震の防災訓練を消防署の職員さんに指導して頂きながら、日中だけでなく、夜間を想定した訓練を行っている。また、水害に対しては、職員だけで訓練を行っている。また、年に1回勉強会を行い、全職員が把握できるようにしている。	火災・水害・地震を想定した訓練をしている。火災は夜間を想定し火元を変えて訓練をしている。避難訓練では、移動にリスクがある人の代わりにクッションを使い、全員を車に乗せて避難場所の中学校の玄関まで連れて行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロアではなく、居室で過ごしたいという入居者様に対しては、危険のないよう、そっと見守りをさせて頂きながら自由に過ごして頂いている。声かけに対しては、丁寧な声かけだけでなく、方言を使いながら、1人1人伝わりやすい声かけをしている。	利用者は近隣の方が多く、職員は方言を使い利用者に合わせて言葉掛けで表情を見て笑顔で対応している。職員の年齢層は利用者にとって子供や嫁、孫のようで親しみを込めて利用者と呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問してから返事をするまでに時間がかかる方もいるため、返事がすぐ返ってこなくてもしばらく待ってみるようにするなど、会話のペースに気をつけて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あえて1日の予定を決めず、1人1人がその日どのように過ごしたいのかを、観察しながら対応している。また、声かけしても「まだ」と言われれば時間をずらして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人やご家族様より希望があれば、施設に美容師を呼んだり、いきつけの美容院に行ったり、ご家族様が来て切ってくれたり1人1人対応を変えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の給食センターから届くため、味見をして少し調整して配膳したりすることがある。おやつに関しては、フロアで職員と一緒に作る事も多い。	利用者の状態や関係性に配慮して席次を決め、職員は介助や見守りながら同じ食事を取っている。自分の漬けた「ぬか漬け」しか食べない利用者にも、無理強いすることなく少しでも食べられるよう声掛けし支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養状態は常に医師や看護師と連携をとり、把握している。その中で、栄養状態が悪い方がいる場合には、食事以外に高カロリーの飲料水を摂取してもらっている。		

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々のケアについては、毎食前後に行っている方と、起床時・入床時に行っている方がいる。それ以外には、月に2回訪問歯科が来ており、対応してもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在自立でトイレ使用できる方が少なく、殆どの方が介助で行っている。1人1人排泄チェック表に記入し、状況把握に努めている。	管理者や職員は状態を観察し支援することで利用者の能力は変化することを把握していて、歩けなかった人が立ち上がり、歩いてトイレに行きズボンを下ろすまでを見守りと声掛けで実践している。夜間のみオムツの人も昼間は2人介助でトイレで排泄をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつ時に食物繊維の多いものやヨーグルトなどを摂取してもらっている。その他には、体を動かせる方は、1日の中で少しでも運動ができるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在2人介助で点滴持続の方や、往診の処置が必要な方が増えてしまっているため、なかなか本人のペースで入浴して頂く事が少なくなってしまうが、その他の方に関しては、現在も声かけをして、タイミングを計りながら入浴して頂いている。	午前の往診前に2人介助で入浴している人が半数程いて、他の人は午後1人介助で入浴している。同性介助の希望は叶えるようにしている。拒否する人には職員や時間を代えて声掛けすることで概ね入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は決めておらず、1人1人が眠くなった時に入床して頂くようにしている。夜間だけでなく、日中も横になったほうが良い方に関しては、居室やフロアのソファーに横になって頂く事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれ本人用のファイルに内服している薬の説明が入っているため、全職員が把握できるようにしている。また、新たに出た薬についてはフロアノートに記入し、全職員が確認用にサインしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食にとっても偏りがある方について、ご家族様より本人が食べれるものを伺っているため、その食材がきれることのないよう、気をつけている。また、毎日ぬかどを混ぜていた方なので、ここでも毎日日課として職員と一緒にやっている。		

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在出かけられる方が少なくなってしまったが、出来る限り散歩やドライブに出かけている。自力歩行できる方に関しては、ご家族様と出かける事もある。	天候を見て週2～3回は散歩やドライブで外出するようにしている。施設内では歩ける人も外へ出るのは億劫になっている人が多いが、車で出かけることは好まれるので買い物や行きたいところを聞いて出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は自分で管理できる方がいないため、職員が管理しているが、支払う時には職員が手伝いながら本人に払ってもらう方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在手紙のやり取りが出来る方がいない。電話のやり取りであれば、聞き取りにくい時だけ介助することで、話が出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の温度は常に一定になるよう気をつけている。また、フロアや居室で過ごしている入居者様に季節を感じてもらえるよう、毎月飾りを変えて対応している。	平屋の建物で台所を中心にユニット間を自由に行き来し、手すりを使い広い空間を歩くことで気分転換や運動になる。利用者の状態に合わせて席の配置を工夫している。フロアにある畳スペースで利用者が洗濯物をたたんだり、ソファベッドで横になって過ごしている。季節を感じる「きり絵」が壁に飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファは1人1人の状態に合わせて一番使いやすいものを使用してもらえるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前のご家族様との面談時に、出来る限り馴染みの物を持って来て頂く様お願いしている。また、カーテンは防炎のものをお願いしているが、色の指定はしていない。	布団を敷いたりベッドを利用している居室があり、ベッド上で過ごす人の部屋は家族が天井や壁に飾りをして寂しくならないような工夫をしている。机や椅子、馴染みの筆筒などが置かれその人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	色んなところに手すりを付けてあり、自由に活動して頂けるよう工夫している。また、浴室のシャワーキャリーやフロア内で使用するシルバーカーなどは、誰でも自由に使用できるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600422		
法人名	医療法人社団 聖パウロ会		
事業所名	グループホーム今日香 ほし		
所在地	静岡県磐田市上野部1519-5		
自己評価作成日	平成27年11月26日	評価結果市町村受理日	平成28年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2276600422-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成28年 1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人のため、1日2回看護師の往診があり、1日1回医師の往診もある。24h体制のため、胃ろうやIVH、酸素持続の方も受け入れる事ができるため、医療依存度の高い方の受け入れも行っていることから、重度化しても最後まで今日香で過ごす事を希望される方が多い。
建物も平屋なので、フロアの違う入居者様同士の交流も常に行っている。また、施設内で何かをする時もスムーズに移動できるため、医療依存度の高い方も一緒に参加できている。
田舎なのでたくさん緑に囲まれ、きれいな空気の中で生活する事ができている。また、施設の庭も専門のスタッフが常に管理してくれているため、リクライニングの車椅子の方でも安心、安全に散歩する事ができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時と、年に1回は必ず理念の確認を行っている。また、両方の玄関に理念を掲示しており、常に確認出来るようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているため、草刈りや防災訓練、地区の祭りなどに参加している。施設としては、ジャズライブを行い、地域交流の場を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行っている介護の会に参加し、自宅で介護をしている地域の方と交流を持ち、施設で行っている生活の中での工夫を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	困難事例などがある場合には、運営推進会議で話し合い、そこで出た意見などを施設の会議で報告し、日々の生活に取り入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事があれば運営推進会議で話し合ったり、電話連絡をして相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時には必ず職員に伝え、把握するよう努めている。また、年に1回、施設での勉強会と法人の勉強会を行い、全職員が理解できるよう努めている。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回の施設での勉強会と法人の勉強会で職員全員が理解できるよう努めている。また、不適切なケアが見過ごされる事がない様、常に話し合いの機会を持っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在この制度を活用している方はいないが、いつでも説明できるよう、年に1回の勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は直接説明している。改定時には、最初に文章で連絡し、その後面会に来て頂いた時に、直接説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置している。また、玄関に意見箱を設置している。ご家族様から意見があった場合には、その都度職員と話し合い早急に対応するよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では、それぞれ担当の係の職員が話を進めるようにしており、少しでも話しやすい環境づくりに努めてる。また、会議中でもみんなに伝えたい事や気になることがあれあ、意見を出してもらえよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、自己評価と面談を行ってもらい、話し合いの結果で、昇給の金額を決定している。また、生活状況に応じて、休みの曜日を固定している者もいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設では月2回の勉強会を行っており、法人としては年に数回勉強会を行っている。また、外部研修には希望があれば参加してもらっている。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の勉強会では、それぞれの施設の困難事例を出し合い、意見交換する機会を設けている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、本人が生活している場へ行き、本人やご家族様と話をすることで、環境面や精神面で本当に本人が安心して生活していけるような環境づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	過去に同じように悩んでいたご家族様がいらっしゃる場合には、事例として紹介させて頂き、たとえ小さなことでも安心してもらえるよう、何度でも対応させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの利用が困難となり、グループホームを紹介され、入居を希望してくれているため、他のサービス利用の話はしていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に出来る事はやってもらうようにしている。現在は医療依存度の高い方が多くなっているため、少し難しくなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1回、写真付きの手紙と、ちょっと細かく文章だけの手紙を送っている。また、面会時には、ご家族と一緒に本人の所へ行き、話しやすい空間を作ってから、退室することで、スムーズに話が出来よう工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方が多くなってきたため、1人の面会にきても色々な方も知り合いで話をされていく事が増えている。また、ご家族だけでなく、友人や同僚だった方も面会に来てくれている。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る限りフロアにて過ごして頂けるような環境づくりを心がけている。また、入居者同士が話しやすい空間となるよう、席やソファの配置も考えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りまで行っているため、転院することは殆どないが、亡くなってからも、連絡をくれたり、足を運んでくれたりすることがあるため、自分達の出来る範囲でお話をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅での生活で楽しみにしていた事があれば、それを入居してからも継続できるよう工夫している。困難な場合であっても、表情やしぐさなどを観察し、ちょっとでも変化があれば職員で話し合い対応を変えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報という書類を作成し、入居前にご家族様から伺った事について職員全員が把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録、フロアノート、連絡ノートなどで1人1人の状態を把握するようにしている。また、毎朝カンファレンスを開き、話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝1人づつ1ヶ月評価を行い、変化があった場合には、その都度、他職種の方にも意見を聞きながらみんなで話し合っってプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子についてはケース記録に記入し、いつもと違う事があった場合には、みんなが把握しやすいようにプランにメモを入れるなど工夫している。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊も本人の状態が安定していればいつでも可能となっている。また、馴染みの店や今まで通院していた病院などに行きたい場合にも、出来る限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療依存度が高い方が増えてきたため、出かけることが困難になっている。そのため、地域のボランティアの方に来て頂き、演奏会などを開いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人で24h体制なため、入居時に内科の主治医を移してもらっている。それ以外の病院については、今まで通り通院してもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日2回看護師が、1日1回医師が往診に来るため、常に状態把握をしてもらっている。往診時だけでなく、電話連絡をしても対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報交換は医療法人なため病院同士で対応してもらっている。また、入院中や退院時にも、病院へ行きムテラをしっかり行い、施設に戻るための準備も協力しながら行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前にも看取りまでさせて頂ける事を伝えていて、実際に状態に変化があった場合にも、その都度ご家族様と話し合いの場をもち、看護師や医師の意見も伝えながら対応させて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリ・ハットや事故報告がある場合には職員会議で事故対策を話し合い、職員全員が把握できるよう努めている。また、年に1回、事故対策についての勉強会を行っている。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震の防災訓練を消防署の職員さんに指導して頂きながら、日中だけでなく、夜間を想定した訓練を行っている。また、水害に対しては、職員だけで訓練を行っている。また、年に1回勉強会を行い、全職員が把握できるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロアではなく、居室で過ごしたいという入居者様に対しては、危険のないよう、そっと見守りをさせて頂きながら自由に過ごして頂いている。声かけに対しては、丁寧な声かけだけでなく、方言を使いながら、1人1人伝わりやすい声かけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問してから返事をするまでに時間がかかる方もいるため、返事がすぐ返ってなくてもしばらく待ってみようとするなど、会話のペースに気をつけて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あえて1日の予定を決めず、1人1人がその日どのように過ごしたいのかを、観察しながら対応している。また、声かけしても「まだ」と言われれば時間をずらして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人やご家族様より希望があれば、施設に美容師を呼んだり、いきつけの美容院に行ったり、ご家族様が来て切ってくれたり1人1人対応を変えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の給食センターから届くため、味見をして少し調整して配膳したりすることがある。おやつに関しては、フロアで職員と一緒に作る事も多い。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養状態は常に医師や看護師と連携をとり、把握している。その中で、栄養状態が悪い方がいる場合には、食事以外に高カロリーの飲料水を摂取してもらっている。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々のケアについては、毎食前後に行っている方と、起床時・入床時に行っている方がいる。それ以外には、月に2回訪問歯科が来ており、対応してもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在自立でトイレ使用できる方が少なく、殆どの方が介助で行っている。1人1人排泄チェック表に記入し、状況把握に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつ時に食物繊維の多いものやヨーグルトなどを摂取してもらっている。その他には、体を動かせる方は、1日の中で少しでも運動ができるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在2人介助で点滴持続の方や、往診の処置が必要な方が増えてしまっているため、なかなか本人のペースで入浴して頂く事が少なくなってしまうが、その他の方に関しては、現在も声かけをして、タイミングを計りながら入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は決めておらず、1人1人が眠くなった時に入床して頂くようにしている。夜間だけでなく、日中も横になったほうが良い方に関しては、居室やフロアのソファーに横になって頂く事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれ本人用のファイルに内服している薬の説明が入っているため、全職員が把握できるようにしている。また、新たに出た薬についてはフロアノートに記入し、全職員が確認用にサインしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食にとっても偏りがある方について、ご家族様より本人が食べれるものを伺っているため、その食材がきれることのないよう、気をつけている。また、毎日ぬかどこを混ぜていた方なので、ここでも毎日日課として職員と一緒にやっている。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在出かけられる方が少なくなってしまったが、出来る限り散歩やドライブに出かけている。自力歩行できる方に関しては、ご家族様と出かける事もある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は自分で管理できる方がいないため、職員が管理しているが、支払う時には職員が手伝いながら本人に払ってもらおう方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在手紙のやり取りが出来る方がいない。電話のやり取りであれば、聞き取りにくい時だけ介助することで、話が出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の温度は常に一定になるよう気をつけている。また、フロアや居室で過ごしている入居者様に季節を感じてもらえるよう、毎月飾りを変えて対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファは1人1人の状態に合わせて一番使いやすいものを使用してもらえるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前のご家族様との面談時に、出来る限り馴染みの物を持って来て頂く様お願いしている。また、カーテンは防炎のものをお願いしているが、色の指定はしていない。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	色んなところに手すりを付けてあり、自由に活動して頂けるよう工夫している。また、浴室のシャワーキャリーやフロア内で使用するシルバーカーなどは、誰でも自由に使用できるようにしている。		